

The Overview of the History of the Western Australia's Politics

Hiroyuki Ariyoshi

Otemon Gakuin University

Abstract

Western Australia has experienced three periods of extraordinary growth since Captain James Stirling proclaimed the Swan River Colony in 1829. They are the gold rush era of the 1890s, the opening up of the Pilbara iron ore province in the 1960s, and the development of off-shore oil and gas resources which gathered pace early in the new century. Hailed by governments, they have all provided enormous opportunities and challenges, especially for the state's political leaders, the premiers.

Eleven premiers-10 men and one woman- have led the state since the frenetic activity of the iron ore boom took hold, resulting in billions of dollars of foreign investment and thousands of people flooding in to WA. The premiers had great glee announcing the multitude of new developments, some in isolated and harsh parts of the state. Then they had the task of overseeing the provision of government services in response to growing demands, with varying success.

Reviewing the efforts of the 11 premiers to steer WA through the ups and downs of the past 40 or so years has thrown up new insights into their ingenuity or, in some cases, lack of it.

(quoted from the book of "Tales from boom town" authored by Peter Kennedy)

最近の西オーストラリア州首相の 経歴と州政治の流れについて

有 吉 宏 之

追手門学院大学

著者はオーストラリア研究所の海外共同研究の一環として 2013 年及び 2014 年パースに出張し、最近の西オーストラリア州の政治の歴史と動きについて資料を収集するとともに西オーストラリア州議会議員、州政府閣僚より情報を入手した。その概要は次の通り。

西オーストラリア州では、1890 年に就任した初代の Sir John Forrest 首相から現在の Colin Barnett 首相まで 33 人の州首相が誕生している。第 23 代首相の David Brand 首相から、現在の Colin Barnett 首相までの首相の政治的背景と州政治の動きについて述べる。

1. David Brand 首相（保守党）

Brand 州首相時代に Menzies 連邦首相は 1938 年から続いていた鉄鉱石輸出を解禁したが、これによって西オーストラリアの資源開発が開始されることになった。

Brand 首相の右腕として活躍した経済担当大臣、Charles Court は Pilbara 地方の鉄鉱山開発、大陸横断鉄道の建設等に力を発揮した。

2. John Tonkin 首相（労働党）

教師出身、1972 年末、当時の Whitlam 連邦政府首相が選挙応援のため、パースを訪問したが、当時の Tonkin 首相と州の経済政策について意見が対立し、州議会選挙で敗北することとなった。

3. Charles Court 首相（保守党）

Charles Court 首相は第二次大戦の際、ニューギニアに出兵し、終戦後はニューギニアにおいて日本軍捕虜の監督を行った。Court 首相は日本軍捕虜に対して人道的に対処したとして評判となった。退役後、州議会議員に出馬し、Brand 内閣の鉄道大臣として Pilbara 地方の資源開発に尽力した。

北西大陸棚の天然ガス開発では、日本企業のために外資企業のプロジェクト参加に反対した Whitlam 連邦首相と激しく対立したが、Whitlam 首相の辞職により北西大陸棚天然ガスプロジェクトは開発が始まった。日本企業の西オーストラリア資源開発参加にも多大の貢献を

している。

4. Ray O'Connor 首相 (保守党)

Charles Court 首相が New Guinea で出兵中に知り合う。退役後ビジネスを始める。その後州議会議員に出馬。Charles Court 首相の引退に際して後継者として選ばれるが、首相在任中に汚職やギャンブルさらにはホテル建設に関して収賄の容疑により王立調査委員会では有罪が確定し、収監される。釈放後首相を辞任。保守連合の中では「The forgotten Premier」(忘れられた首相)と揶揄されている。

5. Brian Burke 首相 (労働党)

ABC 放送や The West Australian の記者をしていたがその後労働党に入党し、政治家としての頭角を現し、弱冠 32 歳で首相となった。

Burke 首相はその政策よりも若い時から政治資金調達能力にたけており、州政府系開発公社を舞台にしたスキャンダルにも見舞われた。当時連邦政府では西オーストラリア州出身の Hawke が首相であり、Burke 州首相は Hawke 連邦首相からも高く評価され、中央政界への進出の可能性も噂されていた。

これは、Burke 首相と Hawke 連邦首相が西オーストラリア大学の学友であり、学生時代からの親友でもあったことが背景になっている。

Burke 首相は州首相辞任後、連邦政府より駐アイルランド大使に任命されていたが、Lawrence 首相時代に設置された王立調査委員会では Burke 元首相の横領、収賄の事実が発覚して有罪となり、収監された。

Burke 首相辞任後も労働党内における Burke 元首相の政治的影響力は強く残り、その影響力を如何にして排除していかうかがその後の労働党の大きな課題となった。

6. Peter Dowding 首相 (労働党)

弁護士出身の Dowding は、Burke 首相の後継者として首相に就任したが、在任中も Burke 前首相の強い影響力を排除できず、また Burke 前首相と親密な関係にあったパース出身の実業家 Alan Bond との不健全な関係を王立調査委員会から指摘され、窮地に陥った。2 年間という短い首相在任期間は Burke 前首相の負の遺産を背負った 2 年間であった。Dowding 首相は、Burke 前首相に「毒を盛られた」首相と評された。

7. Carmen Lawrence 首相 (労働党) (オーストラリア最初の女性州首相)

西オーストラリア大学時代から学生運動に関係し、卒業後メルボルンで市民運動に活躍していたが、1973 年にパースに戻って労働党に入党した。

州首相に就任後、実兄で市民運動をしていた Bevan が西オーストラリア州政府州営企業の不正問題を糾弾し始めたこともあり、事実関係調査のための王立調査委員会を立ち上げた。この中で労働党の多くの幹部の不正が指摘され、前任である Burke 首相、Dowding 首相の関与が報告書の中で指摘され、大きな議論を巻き起こした。また法律で設置されている「州立汚職委員会」も今後政治家、公務員の汚職事件を調査懲罰するためにその権限を大幅に強化した。

1993 年の州議会選挙で保守連合が 10 年に及ぶ労働党政権を敗北に追い込んだことにより州首相を辞職した。

8. Richard Court 首相（保守連合）

政治の世界では世襲制度は殆ど存在しないオーストラリアでは珍しくオーストラリアで初めての世襲の州首相となった。Richard Court 首相は Charles Court 首相の 4 男として生まれ、軍隊さらにはビジネス界での経験を経て、パースを選挙区とする州議会議員となり、その後州首相となった。

8 年間の州首相在任中は、州営企業の放漫経営の監督の甘さを批判され、また州有林の伐採による有効利用を進める法案に対して環境団体からの反対に直面した。2001 年の州議会選挙では当時全国的に台頭していたワン・ネイション党との選挙協力の問題でも批判を浴び、州議会選挙に惨敗して州首相を辞任した。

Richard Court 元首相は政界から引退後、西オーストラリアに進出をしている多くの外国企業のコンサルタントをつとめ、外国企業の西オーストラリア州進出を手助けしている。

9. Geoff Gallop 首相（労働党）

Geoff Gallop 首相は西オーストラリア大学時代から秀才の誉れが高く、オーストラリア全国で毎年数名が選ばれる英国の「ローズ奨学金」を授与される名誉を得た。オックスフォード大学留学中は後に英国首相となる Tony Blair 首相の学友となった。

帰国後キャンベラのオーストラリア国立大学に就職する予定であったが 1983 年にパースのマードック大学の教員に採用された。その後フリーマントル市議会議員に当選して政治家の道を歩み始めた。

Gallop 首相の政治的課題は前任の Richard Court 首相が推進していた州有林の伐採開始という大きな政治問題に対し、州有林の伐採は中止して、今後とも保護していくという決断をした。

また在任中も労働党内部の人事に Brian Burke 元首相が介入したり、労働党幹部のスキヤンダルで窮地に追い込まれたこともある。

Gallop 首相は 2006 年 2 月に辞任を発表したが、その辞任の大きな理由としては長らく患

っていた鬱病の悪化があると言われている。辞任後はシドニー大学の教授に就任した。Gallop 首相は就任当初から Brian Burke 元首相と州政府閣僚の接触を禁止し、更に閣僚がロビーストと接触をすることも禁止する厳しい態度を示した。

Gallop 首相は学究的な経歴から「The Academic Premier」（アカデミックな州首相）とあだ名された。

10. Alan Carpenter 首相（労働党）

Carpenter 州首相は、大学卒業後は地方新聞社の Albany Advertiser やパースのラジオ局に勤務し、その後政界入りをした。Gallop 州首相の突然の辞任を受けて州首相に就任したが、Gallop 州首相が取った路線を変更し、労働党の政策や人事に介入する Brian Burke 元首相やロビーストと州政府閣僚が接触することを容認する政策を発表して世論の批判を浴びた。Brian Burke 元首相は新たに設立された CCC（Corruption and Crime Commission）の喚問を受けてその後の審理で有罪となり収監されたが、Carpenter 内閣の数人の閣僚も収賄等の嫌疑で CCC に喚問され、結果的に大臣を辞職することになった。

Carpenter 首相は就任当初から州営企業の幹部や元州議会議員の年金制度が庶民とは隔絶して高額であることに疑問を呈し、この是正を求めて法律の改正を求めたが州議会の反対で実現しなかった。

2008 年の州議会選挙において労働党は保守連合と接戦を演じたが、無所属議員が保守連合に付いたことによって過半数を獲得できず、政権を保守連合に渡すことになった。

11. Colin Barnett 州首相（保守連合）（現職）

Barnett 州首相は、西オーストラリア大学を卒業後オーストラリア統計局（ABS）に勤務、その後パースのカーティン大学で経済学を講義した。またその後にはパース商工会議所のエコノミストに就任し商工会議所の専務理事まで上り詰めた。

1990 年に政界に飛び込み、パース選出の州議会下院議員に当選し、1996 年には Richard Court 内閣の教育大臣に就任した。

2008 年の州議会選挙では選挙予想では劣勢にあった保守連合を束ねることに成功し、8 年ぶりに州政権を奪還した。西オーストラリア州経済は近年の資源貿易でオーストラリアでも好況を呈している州であるが、中国経済の鈍化による資源貿易の不透明化で西オーストラリア経済も先行きの見通しがし難くなってきている。

Barnett 州首相は自らが経済学者であることもあり、西オーストラリアにかかわる多くの資源開発プロジェクトに積極的に関与している。

2008 年に州首相に就任してから 2 度の州議会選挙を勝ち抜いて既に 6 年の長期政権になっているが、州首相後継候補者を積極的に排除する戦略をとっており、今のところ有力な後

継者は育っていない。

Buswell 財務大臣が次の党首に一番近いという見方もある。党内でも派閥を作らず、孤高を保っていることから、「皇帝」と言われることもある。

総括的分析

1950年代から現在までの州首相の経歴とそれに伴う州政治の動きを述べたが、州政治の全体の流れを見てみると、やはり西オーストラリア州という東部諸州とは隔絶した地域に存在することによる特徴が見て窺える。

1950年代から現在まで西オーストラリア州政界で影響力を行使しているのは限られた政治家ないしその家系であり、その政治家が州政治を支配し州選出連邦議員を輩出しているということである。

例えば、Beazley 労働党連邦議員（2度にわたり連邦労働党党首になったが、総選挙で敗北し遂に連邦首相になれなかった。最近政界から引退。）は父親が連邦議会議員で連邦政府の大臣までなった。西オーストラリア州政治を長い間陰で操っていた Brian Burke 元首相とは大学時代の学友で、西オーストラリア労働党の役員選挙や労働党政権の閣僚選考では陰で影響力を行使してきたと言われている。

Brian Burke 元首相については1980年代から西オーストラリア州が抱えてきた政治的腐敗の源泉ともいえる政治家である。Burke 政権以後労働党、保守連合を問わず、Burke 元首相が関与したスキャンダルとそれに伴う調査委員会を設置して事実解明に努めたが、Carpenter 政権で有罪として投獄されるまでその影響力は絶大なものであったと言われる。

保守連合も政治的スキャンダルと無縁ではなかったが、オーストラリアでは珍しいと言われる世襲政治が展開されたことで記録に残る。

Charles Court とその4男 Richard Court がそれぞれ8年間にわたって州首相として政権を担当したことは土地柄が保守的であることで進歩的な考えが一般的なオーストラリアでは珍しい事といえよう。

Charles Court 首相は第二次世界大戦時ニューギニアでの日本兵捕虜との交流経験がその後政治家となった際に日本企業と緊密な関係を築くのに役立ち、日本の資源産業進出において大いに協力を得たことは記録に残されるべきことである。

西オーストラリア州も東部諸州ほどではないが、アジア系の非白人移住者が増加し、非白人政治家も誕生してきており、これまでの白人による州政治の独占は徐々にではあるが難しくなってくると思われる。

参考文献

「Tales from Boom town」 by Peter Kennedy published in 2014 by UWA publishing

最近の西オーストラリア州首相 2014年12月作成(資料)

David Brand 1959-71 (保守連合)

John Tonkin 1971-74 (労働党)

Charles Court 1974-82 (保守連合)

Ray O'Connor 1982-83 (保守連合)

Brian Burke 1983-88 (労働党)

Peter Dowding 1988-90 (労働党)

Carmen Laurence 1990-93 (労働党)

Richard Court 1993-2001 (保守連合)

Geoff Gallop 2001-06 (労働党)

Alan Carpenter 2006-08 (労働党)

Colin Barnett 2008 - 現在まで (保守連合)